

パワーシフトキャンペーン
現状の厳しい状況と対応、今後に向けた工夫

補助金を活用したPPA と蓄電池システムの構築

2024年10月30日

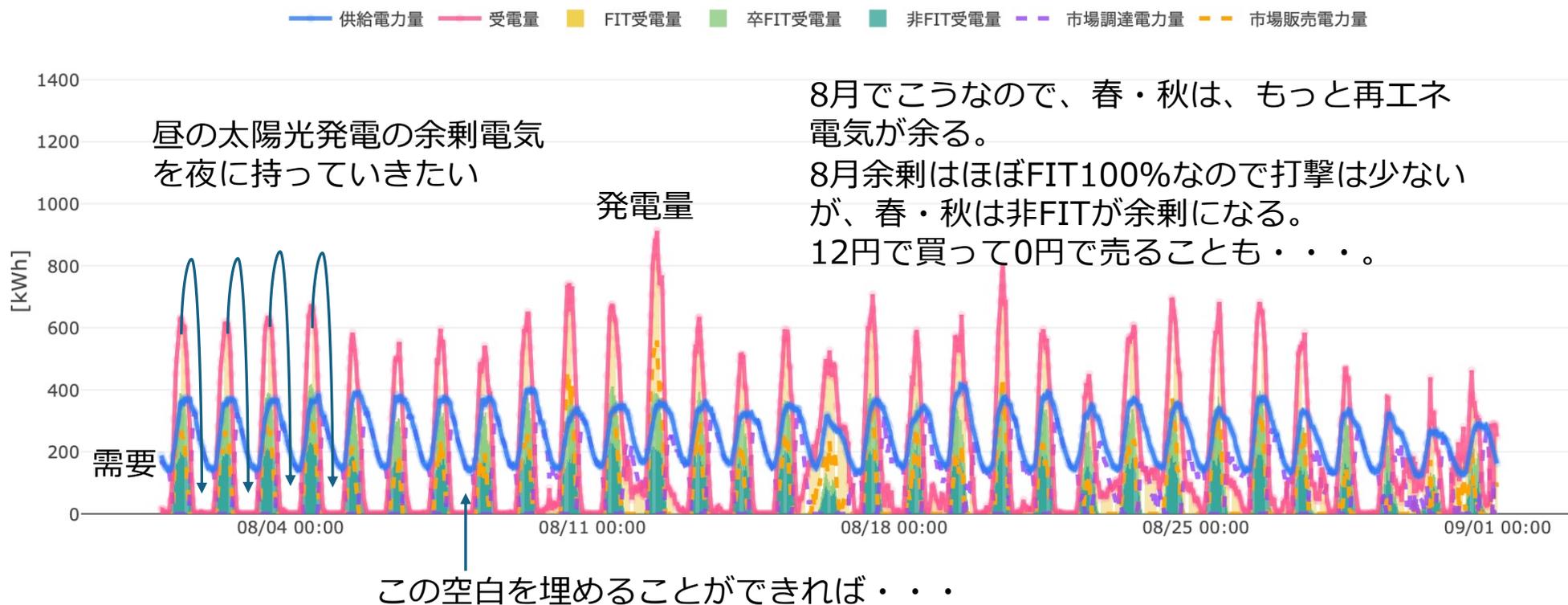
グリーンピープルズパワー（株）

目次

- 1、GPPの電気供給の現状
- 2、昼間需要の新規獲得
- 3、新規発電所は原則PPA
- 4、夜需要に対応する蓄電池
- 5、代理店による地域での地産地消実現

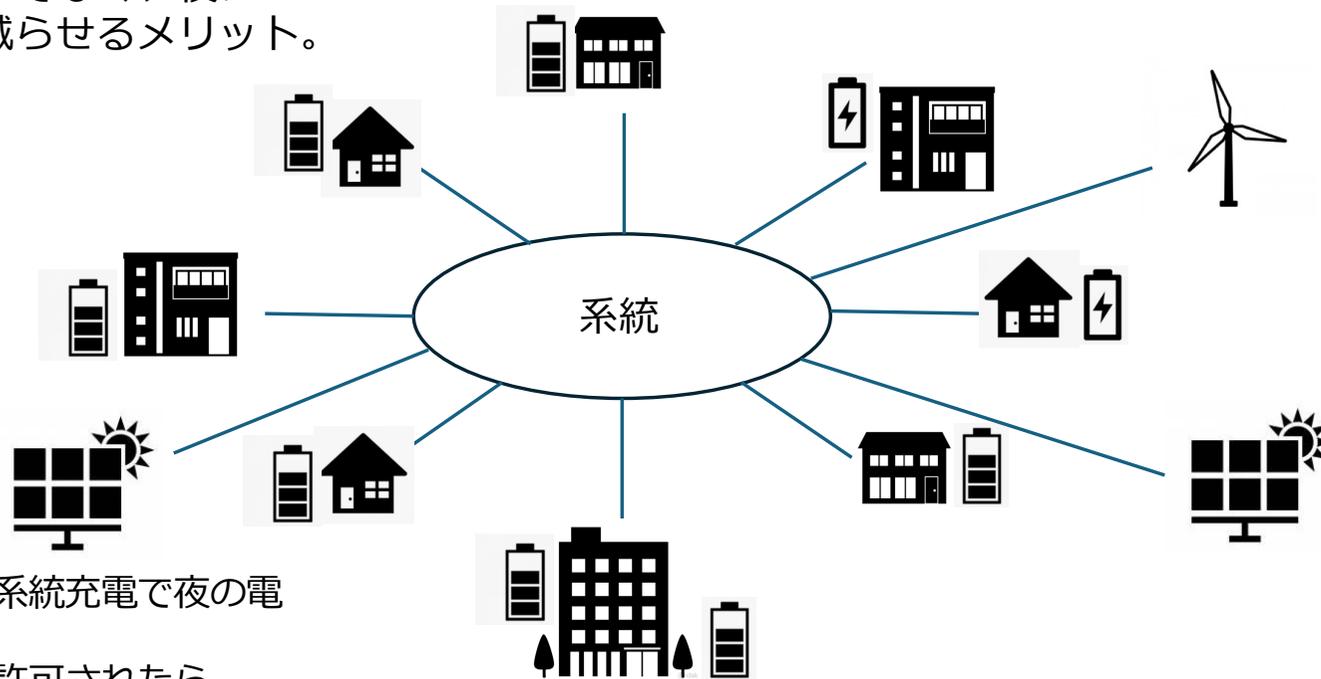
1、GPPの電気供給の現状

GPPの2024年8月の電気需給（需要と供給）のグラフ



2、昼間需要の新規獲得

新規大口顧客（高圧）も歓迎。昼間の需要が大きい工場など。
一般家庭など低圧には、蓄電池を（GPP負担で）設置、昼間の電気蓄電し、夜使ってもらう。
昼需要を増やすだけでなく、夜に市場からの購入を減らせるメリット。



家庭用蓄電池ネットワーク

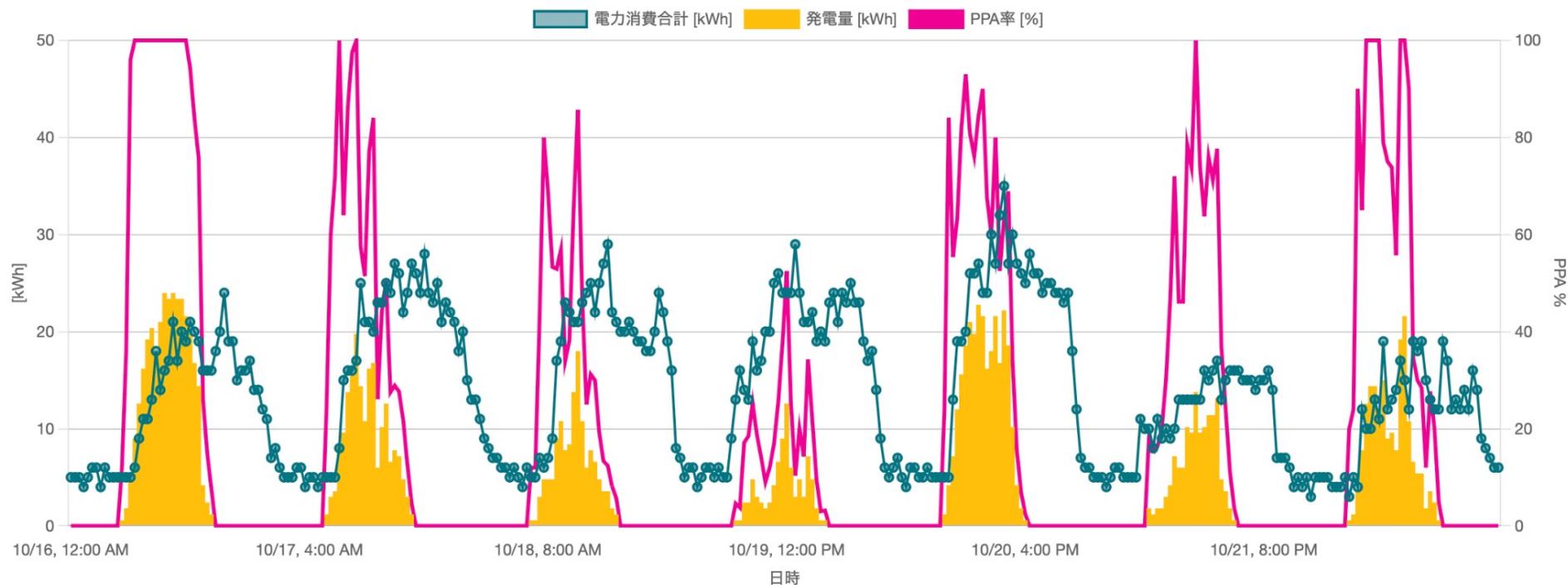
第一段階は昼間の系統充電で夜の電気を賄う。
系統への逆潮流が許可されたら、GPP全体の夜の電気を供給。

3、新規発電所は原則PPA

EGPの非FIT発電所と特定需要家のPPA供給

発電所の電気をどれだけ使っているかが、PPA率という形で見える。

電気の行き先のない発電所は増やせない・・・が、使ってくれば再エネが増える！



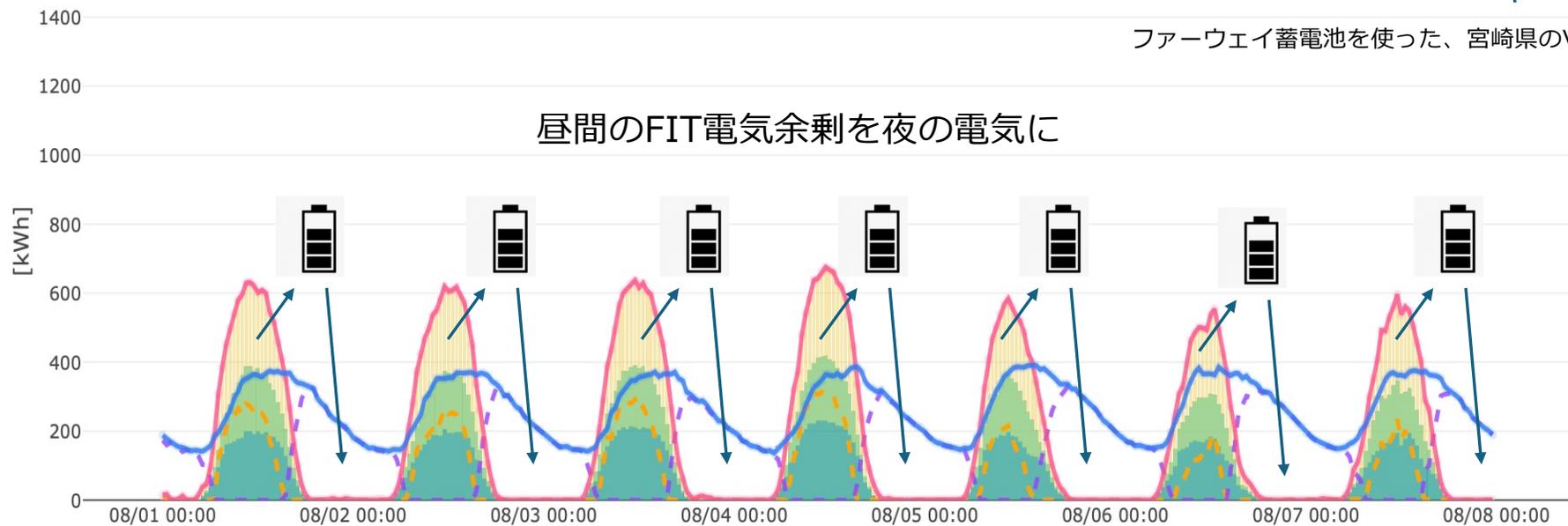
4、夜需要に対応する蓄電池

現状なら、5MWhの蓄電池で100%非FIT再エネが実現できる。
 下図の発電の緑の部分（非FIT）を、FITのところまで増やすことも必要。
 補助金を使って、野立てや営農型発電所に蓄電池を併設する。



ファウウェイ蓄電池は太陽光パネルの下に収まる大きさだ

供給電力量 受電量 FIT受電量 卒FIT受電量 非FIT受電量 市場調達電力量 市場販売電力量



ファウウェイ蓄電池を使った、宮崎県のVPP事例

昼間のFIT電気余剰を夜の電気に

5、代理店による地域での地産地消実現

GPP型地域新電力を全国に地産地消エリアを作ろうと思う人(団体・企業)にノウハウを伝授。リスクの少ない代理店からスタートし、地域の小売電気事業者(新電力)に育てる。非FIT再エネによる地産地消エリアが日本中に作られる。次には全国送電網を使って、お互いに電気の「融通」をする。やがては、全国をカバーする、再エネ電力網が形成される・・・。

新しいネットワークは地域から地域に伸びていく。

